

4月の科学あそび分科会報告

# 豆 まめ マメ

三蔭堂恵理  
写真 藤高 優男

今年は国際豆年です。国際的な豆類の団体シルズ(CICILS 本部はアラブ首長国連邦のドバイ、ハカン会長)が国連食糧農業機関(FAO)に働きかけ、2013年に制定されました。これは豆の優れた特性である

- ①健康に必要な栄養素の保持と食品分野における技術革新の可能性
- ②環境と調和した持続可能な農業の実現
- ③生産性の面からの食糧安全保障の確立等

について世界的に普及啓発することを目的にしています。

そこでこれにちなんで何か豆と親しむ工作ができると、今年子どもたちと楽しめるのではないかと今回のテーマに選びました。

実物のマメをいくつかと、農文協のそだてであそぼうシリーズの『ダイズの絵本』、『インゲンマメの絵本』、『アズキの絵本』、岩崎書店の『あつめた・そだてたばくのマメ図鑑』といった、豆をテーマにした本もいくつか持参しました。

ただ、豆は食品が多いので、食べてこそその物であり、あまり遊ぶものではないようです。

それでも、ダイズ一つとっても色もサイズも様々で台紙に貼って標本にすると新たな発見があります。

そこで、野本雅央さんのアイディアを参考に台紙を用意して、ダイズとアズキをそれぞれ数種類並べて貼り付け、ミニ標本にしてみました。

黒千石(小さな黒いダイズで北海道の在来種)

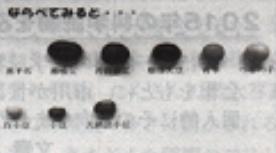
のお茶は参

加者の皆さん

で味わうこと

ができました

が、標本用の



黒千石の用意を忘れた失敗も! 機会があったら探してみてください。

また、今回参加してくださった皆さんも豆に関する話題を持って来てくださいました。

中村涼子さんが見せてくださったのは、紙コップに豆を入れてマラカスのように振ると、豆によって大きさが違い、音色が違うこと! 聞き分けられるかの心配は無用でした。

お玉手の中に小豆を入れるのはその重さやサイズもさることながら、非常食にできるようにだったのではないかとか、豆について思いつく話題は広がります。

藤田あずささんは滅菌シャーレをケースにしたマメ標本をいくつか持ってきてくださいました。並べ方などはとても参考になります。

工作は木製のピンチに思い思いに豆を貼り付ける「マママメクリップ」を作りました。

色も大きさも形も様々な豆に目鼻をつけたり、大小を組み合わせたり、一人ではなかなか浮かばないアイディアも、おしゃべりしながら、次々に生まれてきます。



個性的なクリップがたくさんできました

今回皆さんと楽しんだことをもとに、今年は子どもたちと豆について学び、楽しみたいと思います。